

假名附  
訴訟

代理人御規則

CZ  
776  
06

大日本教育書館		
第四室		
一	九	三
冊	号	架
函		

函架號

東新

036462-000-5

CZ-776-06

訴訟代理人御規則

小林 清親/編

M9

BBR-0135

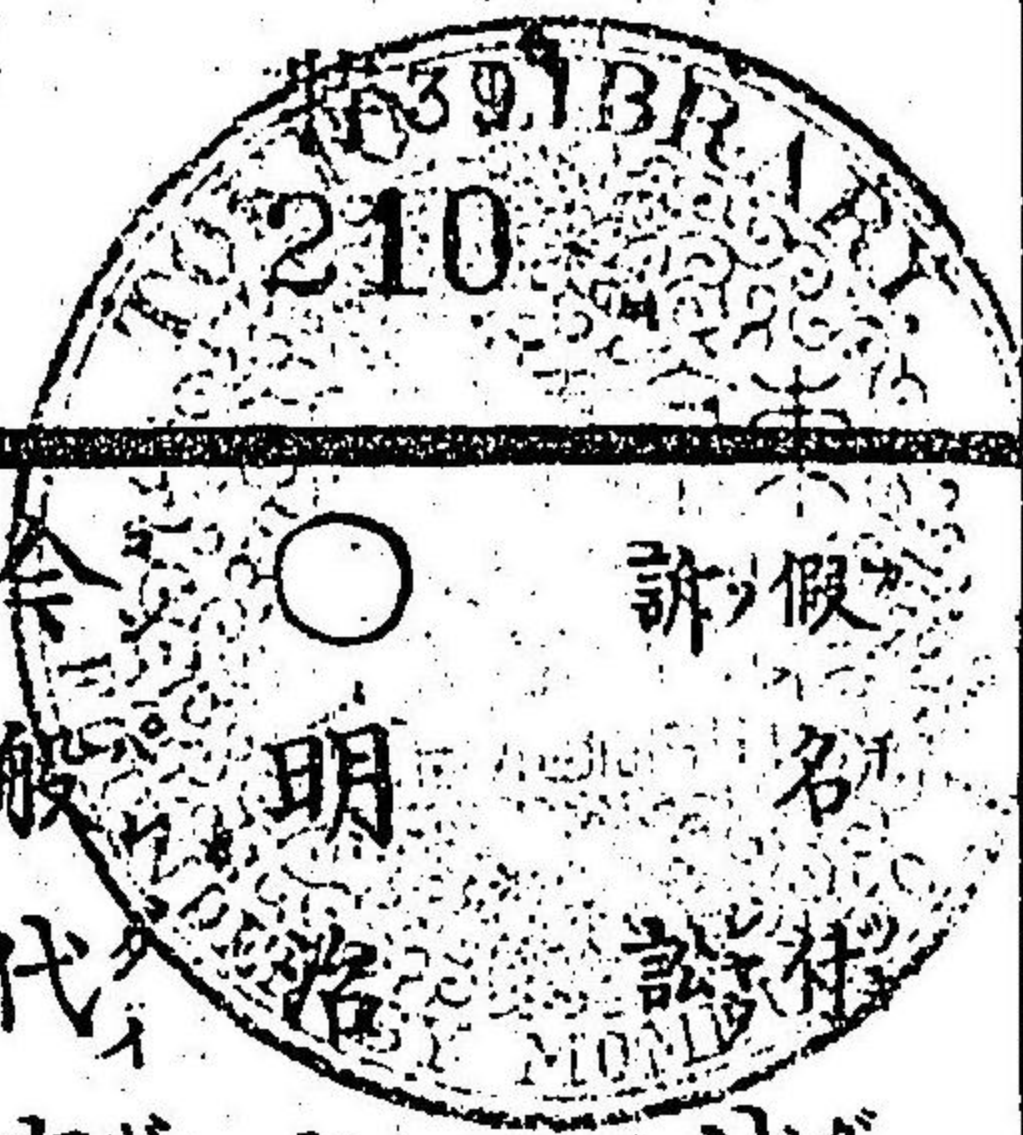


假名付  
訴訟

小林清親輯錄  
代  
言  
人  
御  
規  
則

全

02  
776  
06



東洋書局  
東京  
信

代理人御規則

○明治九年二月司法省甲第一號御達

令般代理人規則別紙ノ通り相設ケ候條来ル四

日ヨリ以後ハ右規則通り免許ヲ經ザル者

言相頼候儀不相成候條此旨布達候事

シ四月一日以後代理人無之且本人疾病事

故ニテ不得止場合ニ於テハ其至親又父子兄弟

ノ内之ニ代ルヲ得バク若シ至親無之者ハ區

戸長ノ証書ヲ以テ相當ノ代理人ヲ出ス亦不苦

明治九年圖書寮交付

明治九年二月二十一日

代理人規則

第一條

凡ソ代理人トニシテスル者ハ先ヅ專ラ代  
行ハント欲スル裁判所ヲ示シテ願書ヲ記  
シ所管地方官ノ檢査ヲ乞フベシ地方官之  
檢査スルノ後狀ヲ具シテ司法省ニ出ス然  
後其許スベキ者ハ司法省之ニ免許狀ヲ下  
付ス

第二條

代理人ヲ檢査スルハ左ノ件ニ照ラスベシ

第三條

- 一 布告布達沿革ノ概略ニ通ズル者
- 二 刑律ノ概略ニ通ズル者
- 三 現今裁判上ノ手續ノ概略ニ通ズル者
- 四 本人品行並ニ履歴如何
- 一 懲役一年以上實決ノ刑ニ處セラレシ者
- 二 身代限りノ處分ヲ受ケシ者
- 三 其地方内ニ定マリタル住居アラザル者

免許

免許ヲ與フベカラザル者左ノ如シ

四 官職アル者

但准官吏タル者モ亦同ジ

五 諸官負華士族及商家其他一般ノ雇

人タル者

但雇主承諾ノ証書アル者ハ此限ニアラ

ズ

第四條

既ニ免許狀ヲ與フレバ之ヲ司法省並ニ各裁判所ノ代言人名表ニ登載ス

第五條

但免許狀ヲ得タル者ハ必ズ該裁判所  
在ノ地大區内ニ住居スベシ

免許狀ヲ得タル者ハ免許料トシテ金拾圓ヲ司  
法省ニ納メシム

但免許ハ一年ヲ以テ限リトス若シ引續  
其職務ヲ行ハント欲スル者ハ満期ノ節  
更ニ免許ヲ受クベシ

第六條

代理人代言ヲ爲スハ必ズ同管轄ノ者ニ

限ラス都テ雙方ノ協議ニ任ズベシ

但免許セラレタル該裁判所ノ外代言  
ヲ得ズト雖モ其ハ控訴等ニテ從前手續  
ヲ以テ他ノ裁判所ヨリ上等裁判所ニ出  
ルガ如キハ此限ニアラズ

第七條

代言人ヨリ訴訟本人ニ對シ不正不實ノ証ア

ル時ハ本人ヨリ何時ニテモ裁判所ハ其由ヲ

届ケタル上ニテ代言ヲ辭シ更ニ他ノ代言人

ヲシテ代言セシムルヲ得ベシ

第八條

代理人ハ訴訟ニ於テ其訴答往復書中ノ趣意ヲ辨明シ裁判官ノ問ニ答フル者トス若シ其辨論端緒ヲ失シ詞訟ノ本旨ヲ紊亂シ裁判ノ妨碍トナル時ハ裁判官之ヲ制止スルヲ得ベシ

第九條

若シ訴答書中遺漏ノ件アル時ハ更ニ書取リテ差出サシメタル上ニ非ラザレバ代理人其事ヲ辨明スルヲ得ズ

第十條

裁判官ノ許可ヲ得ルニ非テハ訴訟上原被雙方互ニ論辨スルヲ得ズ

第十一條

告達諸規則ノ一ニ付裁判官ニ向テ旨趣ヲ陳述スルヲ得ベシト雖モ其是非及ビ立法ノ原旨ヲ論議スルヲ得ズ

第十二條

代理人疾病事故アリテ本日出席スル能ハズバ必ズ裁判所へ旨ヲ届出バシ若シ代理人

故ナク出頭セズシテ聽訟延期スル時ハ訴訟  
本人ノ為メ並ニ相手方ノ為ニ延期ヨリ生  
タル費用ヲ償ハシムベシ

第十三條

代理人ノ謝金ハ代理人其訴訟本人トノ協議  
ヲ以テ其高ヲ預定スル者トス

第十四條

一 訟庭ニ於テ國法ヲ誹議シ及ビ官吏ヲ  
侵凌スル者

二 訟庭ニ於テ臆察詐偽ノ辨ヲ為ス者

三 相手方ヲ惡言凌罵シ其面目名譽ヲ汚  
ス者

四 謝金ヲ前收シ又ハ過當ノ謝金ヲ貪ル  
者

五 他人ノ貸借取引等ノ詞訟ヲ買取リ自  
己ノ利ヲ圖ル者

六 詞訟ヲ教唆スル者

七 故ラニ時日ヲ遷延シテ訴訟本人ノ妨  
害ヲ為ス者

右ノ如キ者ハ其輕重ヲ量リ裁判官直チニ之

右ノ如キ者ハ其輕重ヲ量リ裁判官直チニ之



ヲ罰スルヲ得其罰目左ノ如シ

一 譴責

二 停業 一月以上

三 除名 復代年該人經シ後ニ非レバ

但其罪重キ者ハ律ニ依テ處斷シ本條罰

目ト併マ科スルヲ妨ダス尤第三條第

一項ニ觸ル者ハ更ニ代言人タルヲ許

サズ

第十五條

此規則ニ掲タル所ノ者ハ他ノ法律成規ニ相

觸ルハナシ

○明治九年二月二十二日司法省第二十四號

御達

今般甲第一號ヲ以テ代言人規則布達候條四月

一日ヨリ各管下ニ於テ代言願望ノ者ハ右規則

ニ照シ可取計此旨相達候事

但從前代言人現場裁判所、願掛、等ノ事件

ニ付原被本人ノ請求ニヨリ其結局ニ至ル迄

為取扱候儀ハ格別ノ事

明治九年二月二十二日

○同第二十五號御達  
今般當省甲第一號布達相成候付テハ右施行手續別紙ニ照シ可取扱候條此旨相達候事  
代理人規則中手續

第一條

凡ノ代理人タラント欲スル者ハ先ヅ其願狀ヲ所管區戸長ニ出シ區戸長之ニ與書シテ談地方廳ニ出ス

第二條

地方官其願狀ヲ請クンバ該區戸長ニ下シ其規則中第二條及ビ第三條ニ觸レザルヤ否ヲ具狀セシム

第三條

地方官其具狀ニ就テ之ヲ審案檢査スルハ各便宜ニ隨フヘシト雖モ必ズ本人ヲ規則第二條中一ヨリ三ニ至ル迄ノ事ニ就テハ一ノ議案ヲ出サシムルヲ要ス

第四條

但其議案ニ據リ或ハ問題ヲ設テ之ガ答策ヲ作ラシムルヲアルベシ

地方官ニ於テ其可ナリト思料スル者ハ其見  
込書へ本人出ス處ノ願狀並ニ議案  
戸長ノ具狀書ヲ副へテ之ヲ司法省ニ送呈ス  
若シ其不可ナリト思料スル者ハ司法省ニ送  
呈セバ直チニ其願狀等ヲ本人ニ還付スルハ  
勿論ナリトス

第五條

司法卿其書類ヲ取り之ヲ審議セシメ其許ス  
ベシト決スル者ハ乃チ之ニ下付スルニ免狀  
ヲ以テシ之ヲ全國代言人表ニ掲載セシム若

シ其許ス可カラザル者ハ直チニ之ヲ地方官  
ニ還付スルハ勿論ナリトス  
但免許料ハ十日内ニ之ヲ地方官ニ納メ地  
方官取纏メ一年四次之ヲ司法省ニ納付ス  
共ニ贖金收納ノ期限ヲ以テス

第六條

免狀ハ地方官ヲ經區戸長ヨリ之ヲ本人ニ付  
ス本人免狀ヲ受クバ其免狀ニ届書ヲ添へ  
所在ノ裁判官閱シ了レバ書記ニ命ジテ其姓  
名住所族籍年齢等及ビ免狀ノ年月ヲ裁判所

ス  
代<sup>ダイ</sup>言<sup>ゲン</sup>人<sup>ニン</sup>表<sup>ヘイ</sup>ニ  
掲<sup>カケ</sup>載<sup>サイ</sup>セシメ  
其<sup>ソノ</sup>免<sup>メン</sup>狀<sup>ジョウ</sup>ハ  
本<sup>ホン</sup>人<sup>ニン</sup>ニ  
還<sup>タガ</sup>付<sup>ツ</sup>

明治九年二月二十八日御届

定價三錢八厘

東京第六大區本所若宮町百十三番地

輯錄並  
出版人

小林清親

第一大區十四小區小傳馬町三丁目六番地

山崎清七

東京發兌書林

同

新大坂町十番地  
小林喜右衛門

